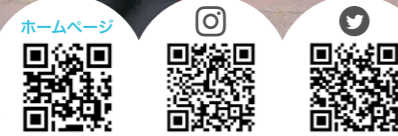




職場選び3つのポイント!



法人・施設紹介

株式会社生活サポーターふるまいは、新潟県見附市を拠点に、三条市などに事業所を構え、デイサービスや小規模多機能、居宅介護支援など各種介護サービスに加え、マシンを使った運動やリハビリ、認知症予防にも力を入れています。



**職場の人間関係を良くするために**  
**小さく懇親会も再開しつつ**  
**交流をはかっています!**  
 コロナ禍前は、事業所単体の懇親会に法人から補助を出したり、法人全体での懇親会等を行ってありました。今後は状況を見ながら、規模を縮小して再開も検討しています。



Staff Voice!

小規模多機能では、お客様の生活に合わせて、柔軟なサービスを提供しております。法人としても、サービス種別が多いので、連携したサービス提供が行えています。

スタッフの声

**新人職員へのサポート**  
**指導員の付き添い**  
**個別指導あり!**  
 個別指導制度によって、新規に入社された方にサポートしております。基本的には、業務を覚えていただくまでは、指導員が付き添いをしていきます。近くに居る為、困った際は直ぐに聞く事ができます。

**中堅・ベテランスタッフへのサポート**  
**さまざまな研修に対して**  
**補助を支給!**  
 現在、コロナ禍で申請は減少していますが、外部研修費用の補助などを積極的に行っています。法人から勤める研修もありますが、直接的に業務に関わりの無い研修にも、理由があれば補助をしております。

**資格取得支援**  
**資格祝い金や**  
**表彰あり!**  
 資格取得に対する補助をしております。具体的には、資格取得研修費用の一部補助(上限あり)や資格祝い金や表彰。勤務に関しては、調整を行い資格取得が容易にできる様にしてあります。

**結婚・出産・妊娠・育児のサポート**  
**結婚・出産祝い金**  
**贈呈しています!**  
 結婚祝金、出産祝金があります。産休、育休の取得率は100%で、安心して子育てできる環境です。また最近提携保育園もできました。職員の急な休みにも柔軟に対応することが可能です。

**給与面で工夫している点**  
**早番・遅番にも**  
**手当を支給**  
 夜勤以外にも、早番、遅番のある事業所では、早番・遅番手当を支給しています。また、土日祝に関しても、1回毎に手当を支給しています。他にも複数事業所兼務のある方には、兼務手当を支給しています。

**休日面で工夫している点**  
**希望日を配慮した公休設定!**  
**勤務変更も柔軟に対応**  
 希望日を配慮しながら、公休を取得しています。職場でのコミュニケーションも取れており、お互い様の精神で行っています。シフト決定後にどうしてもの際は、勤務日変更等も行っております。

株式会社 生活サポーター ふるまい

最新の求人情報  
 Komachi介護転職



**募集職種** ▶ ①介護職員 ②介護支援専門員  
**給与** ▶ ①185,000円~240,000円(手当含む)  
 ②210,000円~260,000円(手当含む)  
**仕事内容** ▶ ①事業所での介護業務。  
 ②事業所内利用者の介護支援専門員業務、または居宅介護支援業務。  
**資格** ▶ ①介護福祉士または介護実務者研修 ②居宅介護支援専門員  
**勤務時間** ▶ ①早番 7:30~16:45 日勤 8:45~18:00 遅番 10:45~19:00  
 夜勤 16:00~9:15 ②8:15~17:30  
**休日** ▶ シフト制 年間休日113日  
**待遇・福利厚生** ▶ ①早遅・土日祝出勤手当が有ります。②件数インセンティブ手当が有ります。  
 ※法人全体でDX化を推進しております。  
 ※社内で独自の金融の勉強会などを開催しております。

**問い合わせ**  
 ※電話の際に「コマチの介護フリーマガジンを見た」とお知らせください。  
**求人問い合わせ電話番号 (担当:佐野)**  
**☎0258-62-3555**  
**株式会社 生活サポーター ふるまい**  
 見附市新幸町7-11  
<https://www.hurumai.com>



見附市

株式会社 生活サポーター ふるまい



ケアプロが、  
**ピーエムシー株式会社**  
**斎藤 洋さん**

介護プロガ-のCHECK!



法人内に様々な事業所があることで情報伝達が複雑化して大きな課題となっていました。この課題を改善するために「LINE WORKS」を導入し、リーダークラス以上の職員がこれを活用しています。導入以前は決済資料の押印や、各部署への電話やメールのやりとりといった報連相の手間がかかっていましたが、電子化で大幅に効率化されたそうです。

good!  
**1**  
**情報共有の**  
**効率化に**  
**チャレンジ!**



good!  
**2**  
**ICT活用で**  
**ケアの質向上に**  
**チャレンジ!**  
 記録の電子化に伴って「ICTに苦手意識のある職員さん」にどうアプローチするかという課題が発生しました。慣れるには時間の移行期間を設けました。結果、全ての職員さんが記録のデジタル化に対応できたそうです。このほか「眠りスキャン」等の福祉機器についても導入を進めており、グループホームでは既に8割以上のベッドにこれを設置し、夜勤者の業務負担軽減に役立っているそうです。

good!  
**3**  
**リーダー職員を育て**  
**課題解決できる職場**  
**づくりにチャレンジ!**  
 毎月のリーダー会議のあり方を見直し、ディスカッションを中心としたスタイルに変更したことでリーダー職員の姿勢に変化があったそうです。以前であれば「困っています、どうしたらよいでしょうか?」といった質問が多かったものが「私はこの課題に対してこのように対応したのですが、あなたはどう思いますか?」というように自分の考えや実践を話し、相手のフィードバックを求めるような発言が増えてきたとのこと。また、職員の不平等感を軽減させるため、「休日出勤職員には手当をつける」などの工夫をしているそうです。



課題・目標



SNSを通じた積極的な情報発信

生活サポーターふるまいでは、Twitter や Instagram等のSNSを通じて情報発信をしています。SNSを効果的に使い情報発信することで「新人職員採用」「利用者家族や地域へのアピール」につながることが目指しています。実際にSNSを見た利用者の家族から「親の状態が分かり、安心できました」など感謝の電話がかかってくることもあるそうで、今後もプライバシーやセキュリティに十分配慮しながら発信していきたいと話してくれました。